

<p style="text-align: center;">岩手県工業技術研究推進会議 材料技術部会議事録</p>		<p>(実施日)</p> <p style="text-align: center;">平成16年10月26日(火)</p>
<p>(テーマ名)</p> <p style="text-align: center;">県境不法投棄物溶融スラグの骨材利用 (事前評価)</p>		
委員	質問・意見	回答
A委員	話の中で第二クリーンセンターが出てきたが、第一クリーンセンターもあるのか？	江刺にある焼却方式のいわてクリンセンターが第一にあたる。なお、第二クリーンセンターは県が県北に設置予定の施設の仮称である。
	県境不法投棄物の産廃処理は短期的に終わることなので、このために溶融施設を建設することは無駄にならないか？	無駄にはならない。溶融施設は不法投棄物処理だけの施設ではない。第二クリーンセンターの施設は一般産業廃棄物及び県境不法投棄物の両方の処理に適用できる。
	県の処理計画の問題なので研究と関係ないが、北東北3県でもっと効率よくやってもよいと思う。秋田県に同和精錬があるがそのような既存施設を利用してもよいのではないか？	一部の廃棄物は秋田県でも処理する計画である。
B委員	午前中の中間報告ではクボタリテックスのアルミの発泡問題は解決したと言っていたが、今回は問題があると言っていた。辻褄が合わない？	金属アルミによる発泡はアルカリ処理・水洗工程を行うことで止めることができた。ただし、水洗によってスラグ中の微粒分がなくなったためか空気を巻き込む問題が発生している。現場レベルでは消泡剤と発泡剤を併用して経験的にコンクリートを作っているのでも、問題解決とした。ただし、メカニズムを研究することでスラグを利用するために必要な技術蓄積が可能となり、他にも更に普及できることから、新たに課題として取り上げた。
	微粒分がなくなって密度が落ちたせいではないのか？	砂、セメント、水、石と一緒に練ってコンクリートを作るときに発生するので密度はあまり関係ないと思うが今後検討する。
H委員	この研究の成果をデータベース化して他の現場に役立てる方法を検討してほしい。	県にデータを報告する。その後学会等で発表することで普及していく。
D委員	<p>(コメント)</p> <p>この研究は、全国に先駆けた先進的な取り組みを行っていると考えられる。</p>	
C委員	不法投棄物のスラグが発生するのは一時的である。工場としては安定した品質の製品を出荷する必要がある。強度がありすぎても問題がある。異質な製品が混入すると困る。	スラグを入れると基本的に強度が下がるので、普通品と同等の強度を持つ範囲で使用する。